

男鹿山塊井戸沢左俣

1991年6月8日

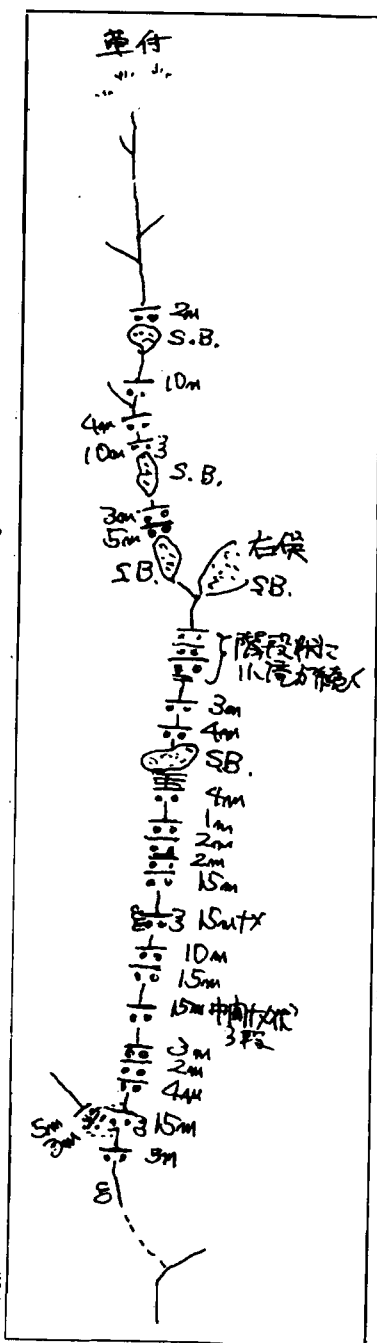
L2

今回は、山菜をあてにおかずを現地調達するという山行を計画してみた。目的の沢は、男鹿山塊井戸沢。ちょっと山菜が少なかったが、沢はよかった。

三斗小屋宿から三斗小屋に向かう登山道と、苦土川の出合から遡行開始。井戸沢出合は、苦土川本流を100mも遡らないところにある。

井戸沢の最初は、カレ沢である。花崗岩の石におおわれた河原を15分程遡ったあたりから、ようやく水の流れが出てきた。そしてまもなく最初の15m滝。左岸の岩場に残置ハーケンが見えている。左岸から捲こうかとも考えたが、沢登りの経験の浅いメンバーのことも考えて、右岸の小沢を少し登ってから、樹林帯に入り、高捲く。この滝をきっかけとして、このあと井戸沢には次々と滝がかかるようになる。いずれも花崗岩でフリクションがよくきくうえ、ホールド・スタンスが多く、快適に直登できる。中間がナメ状となった15m 3段の滝を越すと、その上にまた15mの滝である。真中からとりつき、右岸に渡って、ブッシュ帯との境目を直登して越える。この上の10mは、右岸から捲き、岩棚のような所をたどって、沢に下る。このあとも15m滝が2つかかるが、いずれも直登する。

小滝を越えて先に進むと、スノーブリッジ (S. B.) が出てきた。下をくぐってぬける。このあと二俣まで、小滝がいくつもかかる。いずれもフリ



クシオンはバッチリで、次々に直登する。

やがて二俣。右俣は、大きな雪渓で埋まっている。我々の今日の目標は、左俣の遡行である。小休止した後、左俣へとルートをとる。左俣は、小滝とS.B.が連なっていた。S.B.は全くくぐれない。いちいち上に上がって、越える。小滝は、10m以下のものばかりであるが、6個出てきて、あきさせない。

沢は、だんだん細くなる。水の流れも乏しくなってきた。それとともに、ぐつと傾斜をましてくる。周囲は草付が広がり、チングルマやイワカガミが咲いている。背後には噴煙を上げる茶臼岳の雄姿。快晴に恵まれ、展望を楽しみながら登る。

9:30、ついに源頭。あとは、滑り出したら止まらなくなりそうなほど急傾斜の草付の斜面を登って、流石山の西方の尾根上に出る。 (記・)

【タイム】 三斗小屋宿(6:15)→井戸沢出合(6:20)→右俣出合(8:10)→遡行終了(9:30)→稜線(9:50)→流石山(10:20, 10:50)→大峠(11:30)→三斗小屋宿(15:15)

那須の沢

峠 沢 1991年7月14日

5:25遡行開始。途中かなり長いナメと小滝2つが出てきただけで、30分で峠沢と中ノ沢の分岐点に出る。峠沢は、出合に小滝をかけ、中ノ沢は出合からナメとなり、奥に小滝が見えている。今日の予定は、峠沢の遡行、中ノ沢の下降である。

出合の4m滝は、いろんなルートがとれるが、一番楽な左岸を登る。このあとは平凡な沢となり、6:40大峠と三斗小屋温泉を結ぶ登山道を横切る。ここまできると、沢はもうかなり狭くなってきており、平凡なまま終わりになるのではないかと心配になる。

登山道から30分遡ったあたりから、小滝が連続するようになった。落差1~2mの小滝が続く中に、4mと7m2段の滝が花を添える。両者ともホールドが多く、直登する。この小滝群を突破したところで沢はカレ沢となってしまった。さあこ